

# I 産業の進化と多様化に向けたアクションプラン

## ○次世代モビリティ

### 1. 2030年のゴールイメージ

#### 【持続可能性】

- ・地球温暖化、資源・エネルギー・環境問題：脱炭素、循環経済(CE)、ネイチャーポジティブの施策で、克服(@2050)に向けて着実に推進中
- ・人口減・過疎化(特に地方)⇒労働力不足、渋滞・交通事故、排ガス問題等：安全・便利・快適で環境にもやさしい「ヒト・モノの移動」を提供している
- ・高齢者、障がい者、地方の交通難民：容易にアクセス可能なモビリティサービスを提供している By MaaS&新モビリティ

#### 【経済成長】

- ・豊かな社会実現：MaaSや新たなモビリティの活用、異業種との連携・協働を通じて、新しい価値・サービスによる「移動の楽しさ」を提供している
- ・プライバシー保護、データセキュリティ：安心・安全なサイバー空間を前提に、推進している

#### 【持続可能性×経済成長 両立】

- ・これからも自動車産業の世界的中心地である中部圏で、基幹産業としての地位を維持・向上させている

### 2. ゴールイメージ実現に向けた具体先なアクション

#### ○次世代モビリティ・その社会システム化への進化のStepを踏まえたアクション

- Step I** : 自動車産業(製造)の進化 → CASE、SDV、CN対応
- Step II** : モビリティ産業(サービス)の進化 → サービスの進化 By MaaS Ex.データ・AI活用、ライドシェア  
→ 新たなモビリティの創出・活用 Ex.ドローン、空クルマ、各種自走モビリティ
- Step III** : 社会システム化 Beyond MaaS → MaaS×他産業(医療・介護、災害・防災、インフラ・MaaS等)との連携・協働、社会システム化  
⇒モビリティまちづくり⇒スマートシティ化へ繋げる

- ・アクション1 : 既に業界として取り組んでいる分野 ; 既存のクルマの進化 by CASE等、サービスの進化 by MaaS  
⇒ CAMIPベースで、具体的テーマ推進を支援
  - 産学官連携 ; マッチング, 協同Prj.化、社会実装支援 ex.次なるCOI-NEXT
  - シンポジウム ; 意見・情報交換の場提供(啓発的活動)
  - イベント(ワークショップ, 視察会等) ; 地域・会員の声集約
- ・アクション2 : 社会実装に着手し出した分野 ; 新たなモビリティの創出・活用 ex.空モビリティ、自立走行ロボット  
⇒ CAMIPベースで、新たに活動体を形成し、必要な活動を見出し推進
  - 空モビをテーマに活動推進@2024~2027 → 産学官連携策模索 by シンポジウム, イベント, ...
- ・アクション3 : これからの分野 ; 社会システム化 beyond MaaS  
⇒ CAMIPベースで、新たなテーマを探索
  - 新テーマ探索@2024~

### 3. スケジュールイメージ



		2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	中経連取組
トピック	【自動運転L4】 【空クルマ】	L2@StationAi, お台場(トヨタ) パリ五輪	大阪・関西万博	RttL4 : 40か所 味ヶ丘(ホンダ)	味ヶ丘五輪 ; Joby(トヨタ) 動向注視	国内 : 導入	空クルマ好機@品川駅前	RttL4 : 100か所 国内 : 普及 ?	
Step I	クルマの進化 by CASE等	COI-NEXTやSIP等のPrj進捗に呼応した企画・運営 L4にフォーカスした活動 I (味ヶ丘) @2024~2027 L4にフォーカスした活動 II (味ヶ丘) @2026~2030							~CAMIPベースで具体的なテーマ推進を支援~ ・産学官連携 ; マッチング, 協同Prj.化、社会実装支援 ex.次なるCOI-NEXT・シンポジウム ; 意見・情報交換の場提供(啓発的活動) ; イベント(ワークショップ, 視察会等) ; 地域・会員の声集約
Step II	新サービス by MaaS	CAMIPシンポジウム & イベントでの企画・運営 ポストCOI-NEXT_Prj創出活動@2024~ PRTにフォーカスした活動@2024~2027 L4小型モビリティにフォーカスした活動@2027~2030							
	新モビリティ ex.空クルマ, 自走クルマ	CAMIPシンポジウム & イベントでの企画・運営 空クルマにフォーカスした活動(含Prj.化)@2024~2028 Prj進捗に呼応した企画・運営 具体的なテーマにフォーカスした活動@2028~							~CAMIPベースで新たに活動体を形成し、必要な活動を見出し推進~
Step III	社会システム化	CAMIPシンポジウム & イベントでの企画・運営 スマートCityにフォーカスした活動(含テーマ探索)@2025~2028 新テーマにフォーカスした活動@2028~							~CAMIPベースで新たなテーマ探索~

# I 産業の進化と多様化に向けたアクションプラン

## ○イノベーション

### 1. 2030年のゴールイメージ

- ・オープンイノベーション事例の収集およびオープンイノベーション推進アセットの調査が完了している
- ・内閣府スタートアップ・エコシステム拠点都市（第2期）の活動が満了となる
- ・Nagoya Innovator's Garageにおける新規事業創出プログラムおよびアントレプレナープログラムを通じ実践者、イノベーション創出人材が増加している

### 2. ゴールイメージ実現に向けた具体先なアクション

#### ・アクション1 イノベーション創出エコシステム形成

- ①企業によるオープンイノベーション事例の収集および情報展開
- ②各企業のオープンイノベーション推進アセットの調査および情報展開
- ③企業へのオープンイノベーション含む「共創」の啓発・文化醸成

#### ・アクション2 スタートアップエコシステム形成

- ①内閣府グローバル拠点都市コンソーシアム活動（第2期）の推進
- ②企業へのスタートアップ（ベンチャー）との「共創」の啓発・文化醸成
- ③企業からスタートアップ（ベンチャー）や支援施設等への人材越境の啓発・推進

#### ・アクション3 Nagoya Innovator's Garageの活動

- ①企業向け新規事業創出プログラム（イントレプレナープログラム）
- ②アントレプレナープログラム
- ③中部圏拠点間連携活動の推進

### 3. スケジュールイメージ

プラットフォーム等の立ち上げや参画など連携組織を動かす活動

地域・会員の声を集め、その実現に向けた中央への要請活動

情報の収集・横展開による啓発活動

広域の経済団体として地域をまとめていく活動

	2024	2025	2026	2027	2028	2029
アクション1		①企業によるオープンイノベーション事例の収集および情報展開				
		②各企業のオープンイノベーション推進アセットの調査および情報展開				
	③企業へのオープンイノベーション含む「共創」の啓発・文化醸成					
アクション2	(第1期)	①グローバル拠点都市コンソーシアム活動（第2期）の推進				
	②企業へのスタートアップ/ベンチャーとの「共創」の啓発・文化醸成					
	③企業からスタートアップ/ベンチャーや支援施設等への人材越境の啓発・推進					
アクション3	①企業向け新規事業創出プログラム（イントレプレナープログラム）の実施					
	②学生（中・高・大）含むアントレプレナー向け実践プログラムの実施、若年層の賑わい創出					
	③中部圏拠点間の交流推進		中部圏拠点間の連携活動推進：プログラム相互利用、プラットフォーム形成			

# I 産業の進化と多様化に向けたアクションプラン

## ○エネルギー・環境

### 1. 2030年のゴールイメージ

- ・2050年カーボンニュートラル達成に向けたマイルストーン
- ・「GX実現に向けた基本方針」に基づく「22の今後の道行き」に記載の技術の推進
- ・生物多様性の損失を食い止め回復に貢献（30by30の実現）

### 2. ゴールイメージ実現に向けた具体先なアクション

#### ・アクション1 ゴールイメージを見据えた脱炭素技術の社会実装に資する中部圏の機運醸成活動

- ①国内外における脱炭素技術の情報を発信
- ②大学や研究機関が持つ先進的脱炭素技術（シーズ）と社会が求める技術（ニーズ）とのマッチング活動（シンポジウム・ラボツアー等）を実施

#### ・アクション2 脱炭素技術の社会実装に向けた産学連携の推進

- ①中部圏における脱炭素技術のフラグシップモデルの確立を支援
- ②企業のノウハウを活用した学への研究支援方法および産学研究者間の交流方法の検討

#### ・アクション3 エネルギー・環境政策に関する国・自治体への要望活動

- ①中部圏の脱炭素と経済成長を達成するため、会員企業の声をまとめ上げて国や自治体に提言

### 3. スケジュールイメージ

プラットフォーム等の立ち上げや参画など連携組織を動かす活動

地域・会員の声を集め、その実現に向けた中央への要請活動

情報の収集・横展開による啓発活動

広域の経済団体として地域をまとめていく活動

	2024	2025	2026	2027	2028	2029
アクション1	①脱炭素技術の情報収集					
	②産官学連携したマッチング活動（シンポジウム・ラボツアー等）					
アクション2	①フラグシップとなる中部圏の脱炭素技術を大学と連携し決定			②プロジェクトに参画する機関（産学官）の探索（仲間づくり）		
	①大学の研究プロジェクトのマイルストーン作成支援			②国・自治体の補助金・支援金事業採択に向けた支援活動		
アクション3	①エネルギー基本計画提言活動			①エネルギー基本計画国の情報収集		①エネルギー基本計画提言活動
				①エネルギー基本計画会員からの意見収集		

## I 産業の進化と多様化に向けたアクションプラン

## ○観光

## 1. 2030年のゴールイメージ

- ・中部圏の魅力と活力が国内外から人を惹き付け、観光が中部圏の産業の柱の一つとなっている
- ・豊かな自然や文化を最大限に活用し、何度も訪れたい観光地域となっている
- ・観光地へのアクセスが優れ、ストレスフリーで滞在できる環境が整備されている
- ・DXによって観光産業の生産性の向上と、効果的な観光戦略による誘客の仕組みが実現している

## 2. ゴールイメージ実現に向けた具体先なアクション

## ・アクション1 各地の観光地域づくりの付加価値の向上

- ①観光委員会による情報収集および好事例の共有・啓発
- ②中経連主催のWGによる、各自治体のニーズおよび広域での観光施策に関わる情報の共有
- ③ツーリズムEXPOジャパン2025およびアジア・アジアパラ競技大会など中部圏の観光振興につながるイベントへの協力
- ④各種団体主催の会議体等における情報収集および要請・提言

## ・アクション2 中央日本総合観光機構の支援を通じた広域観光地域としてのブランド向上

- ①広域観光誘客促進WGの活動に基づく事業ニーズおよび情報の提供
- ②機構の機能強化と自立性向上への支援
- ③自治体のほかDMOや各種団体などステークホルダーとの連携支援
- ④中央日本観光データプラットフォームの活用事例の展開によるエリア内の観光DXの機運醸成

## 3. スケジュールイメージ

プラットフォーム等の立ち上げや参画など連携組織を動かす活動

地域・会員の声を集め、その実現に向けた中央への要請活動

情報の収集・横展開による啓発活動

広域の経済団体として地域をまとめていく活動

	2024	2025	2026	2027	2028	2029
アクション1	①観光委員会（中経連参画の会議体、自治体との懇談会における情報発信）					
	②広域観光誘客促進WG					
	②自治体ニーズ・取り組みの収集および整理		②広域での観光施策に関わる情報の共有			
	③ツーリズムEXPOジャパンへの協力		③会員、自治体等への情報共有		③新たなイベントの誘致等に向けた中央への要望等の実施	
	③ツーリズムEXPOジャパン連絡協議会の推進			③アジア・アジアパラ競技大会への協力		
	④観光トピックスの情報収集および、情報発信			④中央への要望、提言等		
アクション2	①広域観光誘客促進WGの活動において把握した自治体の事業ニーズおよび情報の提供					
	②上記WGに基づく取り組みの推進体制の構築支援			②左記取り組みの推進体制および状況の定期的な確認		
	③中経連参画の会議体、会員、自治体の懇談会等を通じた広域連携の必要性の高い事業の情報収集および共有					
	④中経連参画の会議体等における中央日本観光データプラットフォームの活用事例の共有			④エリア内の観光事業者におけるデジタル化の推進の支援		

## Ⅱ. 人材の働き方と進化に向けたアクションプラン

### ○人材

#### 1. 2030年のゴールイメージ

- ・才能豊かな人材を輩出している
- ・多様な働き方の選択が可能となっている
- ・再チャレンジが可能であり、人生百年時代に応じた活躍の場が広がっている
- ・中部圏の魅力と活力が多くの来訪者を国内外から惹きつけ、交流人口も増加する

#### 2. ゴールイメージ実現に向けた具体先なアクション

##### ・アクション1 他機関との連携促進による成長分野への人材移動

- ①産学連携によるリカレント・リスキリング教育の推進
- ②産学参画型の学習機会の拡充（教育委員会・自治体との連携による初中等教育の充実）
- ③大企業の人材等の活用による、中小企業の課題解決の支援

##### ・アクション2 C<sup>2</sup>-FRONTSとの連携による高度人材の育成

- ①高度人材の活躍の場づくり
- ②連携による活動の推進
- ③生成AIが普及する中でも人間らしさを発揮できる教育システムの構築

#### 3. スケジュールイメージ

プラットフォーム等の立ち上げや参画など連携組織を動かす活動

地域・会員の声を集め、その実現に向けた中央への要請活動

情報の収集・横展開による啓発活動

広域の経済団体として地域をまとめていく活動

	2024	2025	2026	2027	2028	2029
アクション1	①産学間のリカレント・リスキリングマッチング プラットフォーム検討・試行		①産学間の学びの循環の自走化推進 (継続的なプログラム構築や、社会人博士派遣の定着等)			
	②【キャリア教育】 ・既存のキャリア教育共創プログラム拡充 ・名古屋市の教育プログラム参画		②振り返り・他地域への展開検討		③環境整備に向けた働きかけ	
	③現状・課題調査、連携先検討		③知識・経験等を有する人材の流動化促進に資する取り組みの推進			
アクション2	①企業への啓発、好事例共有		①C <sup>2</sup> -FRONTS加盟大学全ての情報集約			
	②C <sup>2</sup> -FRONTSとの連携に 関する役割分担、活動計画の策定		②C <sup>2</sup> -FRONTSとの連携による具体的な活動推進			
	③調査・研究	③産学の意見共有	③アカデミア・教育委員会との連携		③中央への要望、提言等の実施	

## Ⅱ. 人材の働き方と進化に向けたアクションプラン

### ○国際交流の活発化および多文化共生推進

#### 1. 2030年のゴールイメージ

- ・中部経済圏の存在感が世界へ発信され諸外国の活力や成長が取り込まれている状態
- ・外国人留学生と企業の相互理解が進み、就職希望者数と実雇用が等しい状態
- ・外国ルーツの子供たちの教育環境が整備され、多様性に優れた人材として自由に社会進出できる状態

#### 2. ゴールイメージ実現に向けた具体先なアクション

##### ・アクション1 対日投資、対外進出、国際交流の促進

- ① 内外の国際機関との交流の活発化と深化
- ② 国際ネットワークを有効活用した、中経連内各部・委員会との連携

##### ・アクション2 外国人材の戦略的誘致

- ① 外国人留学生就職支援
- ② 経団連外国人政策委員会との連携

##### ・アクション3 多文化共生社会の実現

- ① 外国ルーツの児童生徒の就学・進学率向上、社会進出の促進
- ② アカデミアとの連携による学術的アプローチの研究

#### 3. スケジュールイメージ

プラットフォーム等の立ち上げや参画など連携組織を動かす活動

地域・会員の声を集め、その実現に向けた中央への要請活動

情報の収集・横展開による啓発活動

広域の経済団体として地域をまとめていく活動

	2024	2025	2026	2027	2028	2029
アクション1	① グレーター・ナゴヤ・イニシアティブ、行政の国際経済部門、外国公館、内外の国際機関との連携による、産業誘致や地域企業の海外進出支援活動 ② 国際ネットワークを有効活用した中経連内の連携活動の模索、実践（観光・地域産品・セトルア国際便誘致・スポーツ・文化等、各分野における国際化の進展）					
アクション2	① 企業と外国人留学生の交流イベント開催、外国人留学生向け学内インターンシップ開催 ① 自治体・政府・大学等が個別に開催する就活イベントの統合化 ① 外国人学生／企業のインターンシップに関するマッチング事業 ② ミドルスキル人材の新たな管理モデル確立や、所得・税制・職場環境など外国人材誘致に資する提言を行い、戦略面で国際的なリーダーシップをとれる存在を目指す					
アクション3	① 企業によるボランティア人材・会場提供と、日本語教室とのマッチング事業の持続可能性追求（賛同企業の集合体形成など） ① 行政・学校・NPO・企業のエコシステムが有機的に機能している事例研究とモデルケースの適用推進 ① 経団連との共催シンポジウム開催による当会取り組みの紹介・意見交換→他地域への展開 ② 各市大COI NEXT等との連携による学術的アプローチの探求					



### Ⅲ. 持続可能な地域社会の形成に向けたアクションプラン

#### ○魅力ある地域づくり ～様々な人々に選ばれる魅力・地域づくり～

##### 1. 2030年のゴールイメージ

- ・中部圏はライフスタイルに応じたQOL・ウェルビーイングを高められる地域となっており、その魅力に惹きつけられた人々が集う地域となっている。
- ・中部圏で仕事をする魅力が高まっている
  - 安定した雇用、高水準の所得、物理的距離と時間の制約が解消された働きやすい環境が整った中部圏は国内外から多様な人々を惹きつけている。
- ・中部圏で子育てをする魅力が高まっている
  - 子育てや子供の教育環境を重視する層にとって魅力的な地域となっている。
- ・中部圏で余暇を楽しむ魅力が高まっている
  - 都会・自然環境それぞれの娯楽が充実している上に、リニア開業により首都圏の刺激も容易に体験できる環境が整うため余暇を楽しむのに魅力的な地域となっている。

##### 2. ゴールイメージ実現に向けた具体先なアクション

###### ・アクション1 地域の声を収集し、中経連の活動に活かすための取り組み

- ①地域会員懇談会や地域担当・地域駐在のフィールド調査による情報収集
- ②地域産品の魅力発信イベントの開催

###### ・アクション2 まちづくりをはじめ魅力ある地域や職場づくりに関する情報発信・横展開の促進

- ①「中部の魅力を語る なでしこの会」の推進による魅力の発信
- ②中部圏各地の特徴的なまちづくり事例の発信イベントの開催
- ③リニアや東海環状自動車道など地域の成長の起爆剤となり得るインフラの活用をテーマとするイベントの開催
- ④DE&Iの推進をテーマとする会議体の設置や、関連NPO法人との交流など働く場の魅力づくりの推進

###### ・アクション3 行政や大学との定期的な会合・意見交換による連携の素地づくり

- ①行政との懇談会（5県1市、国の地方支分局）
- ②中部圏広域産学官連携協議会・広域産学官連携WGの開催

##### 3. スケジュールイメージ

プラットフォーム等の立ち上げや参画など連携組織を動かす活動

地域・会員の声を集め、その実現に向けた中央への要請活動

情報の収集・横展開による啓発活動

広域の経済団体として地域をまとめていく活動

	2024	2025	2026	2027	2028	2029
アクション1	①地域会員懇談会や地域担当・地域駐在のフィールド調査による情報収集					
	①収集した声や情報を委員会と共有し、活動テーマや政策提言に反映					
	②地域産品イベントの開催（年1回程度）					
アクション2	①「中部の魅力を語る なでしこの会」イベント開催による情報の発信					
	②中部圏各地のまちづくりをテーマとするイベントの開催					
	③インフラ活用をテーマに地域活性化に向けたイベントの開催					
	東海環状自動車道		リニア			
	④ DE&Iの推進をテーマとする会議体の設置や、関連NPO法人との交流など働く場の魅力づくりの推進					
アクション3	①行政との懇談会の開催（毎年1回）					
	②中部圏広域産学官連携協議会の開催（毎年1回） 広域産学官連携WGの開催（四半期に1回程度）					

### Ⅲ. 持続可能な地域社会の形成に向けたアクションプラン

作成途中

#### ○交通ネットワークの形成

##### 1. 2030年のゴールイメージ

- ・国土形成計画に基づく交通ネットワーク等の確実な実現
- ・老朽したインフラ整備を要望し、新規インフラとバランスのとれたリダンダンシーの構築

##### 2. ゴールイメージ実現に向けた具体先なアクション

###### ・アクション1 「日本中央回廊」の効果最大化に寄与する道路整備の後押し

- ① 各縣市町村及び各同盟会等の要請活動への協力
- ② 経済団体としてインフラ整備の重要性を政府に伝え、予算確保に向けたサポートの実施

###### ・アクション2 老朽するインフラ回収の要望

- ① 上下水道老朽化問題に着目し実態調査を開始、必要に応じて改修の提言を検討
- ② 新旧インフラが出来、保守費用増加が懸念されるため、産学官連携の橋渡しを行うことで費用の削減に貢献し、安全・安心 そしてリダンダンシーとしてのインフラ維持の要請

##### 3. スケジュールイメージ

プラットフォーム等の立ち上げや参画など連携組織を動かす活動

地域・会員の声を集め、その実現に向けた中央への要請活動

情報の収集・横展開による啓発活動

広域の経済団体として地域をまとめていく活動

	2024	2025	2026	2027	2028	2029
アクション1	要請活動					
	啓発（提言書作成を含む）活動 ・ 要望活動					
アクション2	情報収集		意見集約 ・ 要請活動			
	連携つくり ・ 啓発活動		連携つくり ・ 要請活動			



# Ⅲ. 持続可能な地域社会の形成に向けたアクションプラン

作成途中

## ○レジリエンス（防災・減災）の強化

### 1. 2030年のゴールイメージ

- ・南海トラフ巨大地震が発生しても、被害を最小限にとどめ、仮に被災した場合でも、短期間で復旧・復興ができる街・地域を形成する。

### 2. ゴールイメージ実現に向けた具体先なアクション

#### ・アクション1 減災に対する啓蒙活動

- ① 委員会において講演会等を実施し、減災への啓蒙活動を実施
- ② フィールドスタディ等を通じて、減災に対する意識の「きっかけ作り」を推進

#### ・アクション2 （会員企業）個社の減災力向上推進

- ① インフラ復旧までの事例を提示し、個社が自助対応力をチェックできる資料を提供
- ② 新しい知見・情報を提供し、減災への取り組み低下を抑制（チェックできる資料の更新を含む）
- ③ 個社事業所別の事業計画作成への啓蒙活動

#### ・アクション3 地域としての減災力向上推進

- ① 産学官を連携させることで、減災力向上に資する仕組み作りの構築

### 3. スケジュールイメージ



円債	2024	2025	2026	2027	2028	2029
アクション1	減災への啓蒙活動（特に経営層に向け、セミナー等の開催）					
	連携つくり・減災への取り組み（視察会等を通じて、減災業務に携わる人に対する「きっかけ」を提供					
アクション2	連携つくり・啓発活動		連携つくり・要請活動			
	連携つくり					